

目次

序 章 「テロとの戦い」より「構造的暴力」を問う

桜井 智恵子

1	戦争の記憶と政治	2
2	記憶の構築を問う	4
3	メモリー・プロジェクト	6
4	未来のための記憶	9

第1章 押しつけ憲法論からの自由

桜井 智恵子

——幣原喜重郎と憲法問題調査研究会

1	はじめに	14
2	「戦争永久放棄」——日本側の必然	20
3	幣原喜重郎が明かした事実	25
4	憲法問題調査研究会の「軍」議論——1945年10月～1946年1月	38

5 押しつけ憲法論からの自由……………46

第2章 沖縄の米軍基地のリスク

——記憶論議の政治利用と終わりなき戦争

グレン・D・フック

1 はじめに……………52

2 集合的記憶と論争……………56

3 過去の論争、過去と現在のつながり……………60

4 宮森小学校での墜落……………66

5 沖縄国際大学での墜落事故……………70

6 おわりに……………73

第3章 東京からハーグへ、戦犯法廷と戦争記憶の政治

ケアステイン・ルクナー

1 はじめに……………78

2 極東国際軍事裁判と日本の記憶の政治……………81

3 東京の極東国際軍事裁判からオランダ・ハーグのICCに至る道のり……………88

4 日本国刑法の(非)調整……………96

5 ハーグから北東アジアへ戻って……………100

6 おわりに……………102

第4章 「カミカゼ」の記憶論争と特別攻撃隊員の自己表現にみるアイデンティティ

ファン・デル・ドールス 石川 瑠璃

1	はじめに.....	108
2	彼らは誰か？ 特別攻撃隊員にまつわる記憶論争.....	110
3	過去——「私」について.....	123
4	カミカゼ・デイスコースと文脈.....	130
5	おわりに——記憶の再利用とカミカゼのアイデンティティの不確かな未来.....	139

終章 安倍政権下で操られる記憶とアイデンティティ

グレン・D・フック

——憲法9条の再解釈と70年談話

1	9条、記憶、そして安倍政権.....	147
2	戦後70周年における安倍首相の談話.....	155
3	おわりに.....	161

あとがき
参考文献
巻末資料